

平成24年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>1 安全・安心まちづくり事業</b>									
1	継続	麻生区安全・安心まちづくり事業	1,597,000	1,957,392	危機管理担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会情勢に即応した課題を共通認識し、住民、地域団体、事業者、行政機関等の連携及び協働により、区民が「安全で安心して暮らせるまちづくり」を進める。</li> <li>●死亡事故に直結することの多い自転車事故を回避するための判断力向上に向け、事故の瞬間、現場を目で見て学ぶことを目的に「スクエアドストレート交通安全教室」（スタントマンによる自転車事故の実践）を実施する。</li> <li>●増加傾向にある高齢者の事故防止のため、民間自動車教習所に高齢者を派遣して「シルバー・ドライビングスクール」を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●薬物犯罪の研修会、振り込め詐欺の研修会、パトロール手法の講習会を開催</li> <li>●パトロール用物品の貸与</li> <li>●セーフティメールの配信実施、登録者増加に向けた町会を通じてチラシの回覧依頼、転入世帯、小学生の保護者へのチラシの配布</li> <li>●自転車事故防止教室（スクエアドストレート教育）の実施</li> <li>●高齢者の事故防止のための「シルバー・ドライビングスクール」の実施</li> <li>●帰宅困難者支援の充実（駅前民間施設との協定締結、帰宅困難者用備蓄倉庫の設置）</li> <li>●市総合防災訓練の実施</li> <li>●情報共有体制の強化（麻生区災害対策連絡協議会の設立）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の防犯に対する関心が高まるなか、パトロール団体のパトロール実施とさらなる推進のため、安全・安心まちづくり協議会主催によるパトロール手法研修会の開催や物品の貸与等を行うことにより、安全で安心なまちづくりに貢献した。また、セーフティメールの加入促進を町内会、小学校等へ広報し、多くの新規登録者を得ている。当該メールの情報配信により区内の犯罪発生状況等がすばやく確認でき、防犯意識の向上を図ることができた。</li> <li>●スクエアドストレート教室は、県立麻生高等学校の生徒を中心に他の機関・団体も参加して実施した。実際の自転車事故の恐ろしさをリアルに体験してもらうことにより、生徒の事故防止の意識向上に役立った。</li> <li>●シルバー・ドライビングスクールは昨年より2人多い11名の参加者により実施し、参加者から大変有意義であったとの評価をいただいた。</li> <li>●東日本大震災を契機に、住民の防災に対する意識・関心が非常に高まるなか、市総合防災訓練におけるライフライン断絶を想定した訓練の実施により、「自らの命は自らが守る。」ことへの意識付けができた。</li> </ul>	<p>住民の防犯への意識・関心は高く、一層の関係機関の連携が求められている。事象別、年代別の犯罪等に対する研修会・講習会の継続開催や、地域間、パトロール組織間の意見交換会を継続して実施し、安全で安心なまちづくりを推進していく。</p> <p>スクエアドストレート教育についても継続して実施し、少年の自転車事故防止に繋げていく。高齢者の事故防止のため、高齢者を対象としたシルバー・ドライビングスクールも継続して実施していく。</p> <p>平成25年度より防災を単独事業として立上げ、地域防災力の強化、区危機管理体制の強化を図ることにより、災害に強い街づくりを推進していく。</p>
2	継続	麻生区ガイドマップ増刷改訂事業	898,000	779,100	地域振興課	区民から好評を得ている麻生区ガイドマップを、最新の情報に更新し、改訂版を発行する。配布方法は、転入者に転入時に配布することを中心に、区役所窓口にて必要な方に配布する。転入者に知ってもらいたい、放置自転車等放置禁止区域、路上喫煙防止重点区域の掲載や、転入者が転入して不安のないよう、災害緊急時の井戸の所在地や避難所一覧など防災情報も盛り込むなど、地図情報だけでなく、麻生の各種情報を盛り込んだものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●麻生区ガイドマップの改訂・発行</li> <li>●区ホームページの地図データの更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●●麻生区ガイドマップの改訂・発行（15,000部：転入者配布分8,000部と窓口配布分7,000部）</li> <li>●麻生区ホームページ用の地図データ、新百合ヶ丘駅周辺図データの作成</li> <li>●麻生区ガイドマップを改訂の上、発行することができ、転入者及び市民に対して、最新の情報を届けることができるようになった。</li> </ul>	地区の状況を見ながら、次年度も転入者に必要で知って欲しい情報を検討し発行していく。
3	継続	麻生落書き消し事業	149,000	76,073	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要請による「出前落書き消し」を実施し、落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区内駅周辺等の落書き消しの実施</li> <li>●地域の要請に応じた「出前落書き消し」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●落書き消しを行うことで、まちの美観を保持するとともに、防犯効果をもたらした。</li> </ul>	市民活動団体の主体的な取組に留意しながら、本事業を通じて住民間の交流が発展するよう支援する。
4	継続	小学校区危険箇所案内マップ作製事業	280,000	279,888	危機管理担当	平成23年度に小学校区ごとに交通・防犯上の危険箇所を把握し、マップを作製し配付しているが、平成24年度は平成25年4月に入学する新1年生用に必要部数を増刷して、小学校を通じて配布する。	小学校区危険箇所案内マップの増刷と配布を完了させた。（平成25年新入学1年生用）	新入学生徒の家庭に交通・防犯上の危険箇所の周知ができ、交通事故の防止と防犯意識の向上に繋がった。	平成26年度予算の段階では、現行のマップは平成23年度の作製から3年を経過することから、マップの危険箇所の見直しを行い地図の改定を予定している。これにより、平成26年度予算（配布対象は平成27年新入学1年生）は、印刷のみではなく改訂に関わる部分がプラスされるので増加する見込みである。ちなみに平成23年度に新規作製した際の予算額は924,000円となっている。

2 地域福祉・健康づくり事業

1	継続	あさお福祉まつり	2,660,000	2,660,000	地域保健福祉課	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に知らせると共に、福祉について理解を深める「あさお福祉まつり」を開催する。	平成24年11月18日（日）に麻生区社会福祉大会（麻生区社会福祉協議会主催）と同時開催。福祉関係団体およそ70団体に参加。	第23回目となり区内の福祉分野では恒例行事となっており、自主製品の販売、各団体活動紹介やパネル展示を、交通の便が良く、区民が多く来所する区役所、市民館の敷地で行うことで広く知ってもらうことができていた。昨年の東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを開催したことに引き続き、今年は復興支援活動写真展を開催し、麻生区内の各福祉団体・個人の支援活動も紹介され、福祉活動を広く知ってもらう場となった。	当該委託事業は長く継続実施され、定着しているまつりであるため、課題は検討、見直しをしながら継続実施する。
2	継続	ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業	928,000	844,546	地域保健福祉課	歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることによって、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●体験ウォーク年9回実施</li> <li>●公園de健康ウォークを麻生区内6か所の公園で実施（各公園週1回ずつ）</li> <li>●改訂あさおウォーキングマップの増刷済み</li> </ul>	体験ウォークは平均約50名が参加し、うち平均10名が初参加者であり、新たな区民へのアプローチができていた。公園ウォークでは拠点公園を1か所増やし、ウォーキングの習慣化や閉じこもり予防につなげる活動を広げることができた。ウォーキング普及講演会（2回実施）にて、ウォーキングを始めるきっかけづくりへの取り組みや、今年度新たに実施したボランティア研修会（1回実施）にて安全なウォーキング実践への取り組みを行った。	今後も区民への健康づくりのためのウォーキング普及のため、これまでの活動を検証しながら、ウォーキング実践の場の提供やウォーキング講演会等のウォーキングをはじめる仕組みづくり、ボランティアの養成、研修等、区民と協働して、より効果的で効率的な事業執行を目指していく。
3	継続	若いときこそ健康貯金推進事業	189,000	177,068	地域保健福祉課	食習慣の基礎づくりの時期にある中学生に対する食育は、成人期以降の生活習慣病予防に大きく影響し、健康寿命延伸のためにも、かなり重要である。中学生は自身で食を選択する機会が顕著に増加することや、ボディイメージを強く意識しだす時期であることから、平成22年度より区内中学生を対象に、市で養成している「麻生区食生活改善推進員連絡協議会」と協働し、本事業を実施してきた。平成22年度、23年度は食生活を通じて健康な生活を営むための知識と技術の普及を目的に冊子の作成とそれを基にした講話、調理実習を計画した。平成24年度は中学生を取り巻く食環境の整備に視点を置き、中学生の保護者を対象として、家庭での食育について考える機会を与え、食を中心とした家庭でのコミュニケーションを進めていく役割を持つための働きかけをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演会の実施 2回</li> <li>●料理教室の実施 4回</li> <li>●冊子の配付等による「食事バランスガイド」の普及啓発</li> </ul>	区内中学生の保護者を対象に講演会及び調理実習を実施し、中学生の時期の食教育の大切さへの理解と家庭での食育の重要性について考えるきっかけづくりをすることができた。 また、中学生への働きかけについては、1校を対象に冊子を基に講話と食育ゲームを実施し、これらを通して健康な生活を送るための「バランスのよい食生活」について具体的に伝えることができた。	上記のとおり、中学生及び保護者への食育について、来年度以降は地域課題対応事業としては終了とする。今後は学校や麻生区食生活改善推進員連絡協議会等とのつながりを活かし、更に中学生への食育の推進が図れるよう検討していく。
4	継続	高齢者見守りネットワーク事業	500,000	482,784	高齢者支援課	自分から相談ができない、家族がいない、介護放棄されている等の生活維持が困難になっていて、見守りや支援が必要なのに、これまでなんら支援や介護サービスを受けていない高齢者の発見を、高齢者と接触がある各種事業者と協力依頼することで、区内全域ですばやく発見が行われ、住み慣れた地域で安心して生活をおくれるように関係機関での支援に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協力事業者を2事業者拡充</li> <li>●合同民協及び地区民協で事業説明を実施</li> <li>●改良版ステッカーを作成</li> <li>●情報交換会を開催</li> </ul>	新たに神奈川東部ヤクルト販売（株）及びまごころ弁当と協定を締結し、見守りネットワークを更に充実させることができた。また、セブンイレブンの全市協定締結を踏まえ、改めて本部及び区内10店舗を訪問し、事業の周知及び協力依頼を実施し、関係の強化を図った。合同民協及び地区民協4か所で改めて事業説明・協力依頼を実施。協力事業者及び関係機関による情報交換会を開催し、取組の高揚を図った。また、協力事業者の要望等を踏まえ、ステッカーの内張り版及び小サイズ版を作成するなど、事業体制の充実を図ることができた。	今年度からセブンイレブンが全市的な取組を開始したほか、新たに「地域見守りネットワーク事業」もスタートするなど、幅広い見守り体制が構築されてきている。これらの全市を対象とした事業者とも連携を図るとともに、区独自の事業者との連携を強化していく。また、地域に密着し、高齢者の見守りに有効な事業者については、引き続き区独自での協定締結も検討していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>3 総合的なこども支援事業</b>									
1	継続	子育て支援・企画事業	4,245,000	5,274,253	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
1-1	継続	こども相談・支援事業			こども支援室	子どもに関わる相談には子ども教育相談員、家庭相談員、保健師が中心となり対応しているが、必要に応じて児童・家庭支援係や障害者支援係・保護課及び児童相談所・療育センター・保育園・小中学校等の関係機関と連携し、多問題ケースや困難ケースに対しては関係部署とケースカンファレンスを実施し、問題解決に向けて連携や調整を行う。また、多頻度相談保護者や発達障害への対応の研修を実施し、問題の理解や対応を学び相談に活かしていく。	●事例検討会(月1回開催) ●定期的な情報共有(月1回開催) ●必要時関係機関とのカンファレンス(12回) ●個別支援会議(25回) ●その他適宜連携の実施(平成25年3月末現在)	●事例検討会を毎月1回ずつ開催したことにより、多種事例に対しての知識の向上と、関係機関との情報交換や情報共有が図れた。 ●必要時において関係機関との個別支援会議を行い、各関係機関の役割について検討・確認を迅速に行う事により、支援に繋がった。また関係機関との情報共有を図るためのカンファレンスを積極的にを行い、連携体制を強化した。	保護者や子ども・家庭の実情が多様化しており、これらに対応していくためには専門家の助言が必須である。専門カンファレンスを活用し、相談を受ける側の資質の向上を含め、こども相談に活かしていく。
1-2	継続	麻生区子ども関連ネットワーク会議			こども支援室	麻生区における子どもに関連する関係機関、団体やグループの連携を図り、子育てや子どもの健全育成を地域全体で支援するために、子どもに関連する関係機関との情報交換、ネットワーク化に向けての協議を行う。	全体会議3回実施。各部会については「研修企画部会」4回、「情報部会」5回、「みんなのちず部会」4回それぞれ実施	麻生区子ども関連ネットワーク会議を5月、10月、2月、に開催。情報交換や情報共有の充実、部会の見直しの検討を図り、地域に根ざしたネットワークの充実に繋がった。「研修企画部会」では研修内容の検討を行い、今年度初めて区民向けに研修会を企画、実施した。また教職員及び関係者向け研修を2回、危機管理研修を1回実施した。「情報部会」は子育てガイドブックの改訂に向け内容検討をし、情報の充実が図れた。「みんなの地図部会」では、みんなの地図の活用をわくわくウォークの参加や小中学校、こども文化センターなどで普及啓発を図ることにより、継続的な周知を図った。	今年度の実施結果や部会の見直しの検討結果を踏まえ、更なる総合的な子ども・子育て支援に繋ぐため、ネットワーク会議や各部会の活動の充実を図っていく。
1-3	継続	麻生区子育て関連情報誌作成事業			こども支援室	麻生区の子ども・子育てに関する部署・機関及び団体等の集合体である「子ども関連ネットワーク会議」を基盤に情報部会を継続実施し、子育て中の保護者や子育て支援に関わる人と共に「きゅっとハグあさお」の情報誌を修正・増刷、おでかけマップや地域子育て支援センター紹介紙の発行を行っていく。	●きゅっとハグあさお ●ちびっこおでかけMAP ●地域子育て支援センター・こども文化センター紹介紙作成発行	「きゅっとハグあさお」については、増刷に加えて掲載内容の更新及び追加(外国籍区民向け情報、災害への備え、地図の全面改定(各中学校区周辺及び新百合が丘駅周辺の計9エリアの地図作成)などを行い、8,000部改訂発行(3月)。区民の視点に沿って情報を充実させ、幅広い子育て世代へ情報発信をし、子育て支援に役立った。ちびっこおでかけMAPは今年度の情報を更新し5,000部発行(7月)。また新規で地域子育て支援センター・こども文化センター紹介紙を3,000部作成し発行(1月)。それぞれ施設の情報効果的に、またタイムリーに区民に情報提供することにより施設についての周知と家庭から地域に出て行ける機会がつかれ、育児の孤立化防止につながり成果が得られた。	情報は常に更新を行うことが必要である。区民が必要としている情報が行き届くよう、様々な媒体を用いながら情報提供に努め、子育て支援を行っていく。
1-4	継続	麻生区子育て人材バンク事業			こども支援室	子育ての支援を行う子育てボランティアと支援を受ける子育てグループが麻生区子育て人材バンクに登録し、子育てグループから派遣の依頼を受けて、条件に合致する子育てボランティアを派遣し、子育てグループの活動支援を行う。	子育てグループへの子育てボランティアの派遣件数及び人数84件128名(平成25年3月末現在)	登録している子育てボランティアを、区内で活動している子育てグループに、効率的に派遣することができた。また、子育て利用会員においても、昨年度より登録数が増加しており、地域の子育て支援への強化に繋がった。〔登録数:27団体(H23度末)→32団体(H24度末)〕	事業実施について、実施手法の見直しと契約方法も見直しをしていく
1-5	継続	地域子育て貢献事業			こども支援室	・保育所に入所していない子どもと保護者を対象に、体験保育や誕生会への参加、絵本の貸し出し等、保育園を基盤とした子育て支援をする。また人形劇への参加を呼びかけ、未就学児のいる親子同士の交流の場を提供する。 ・麻生区内の認可保育園長児全員を対象に事業を行うことで、健全育成を図るとともに、園児の就学に向けての交流の場を提供する。	●5月より公立保育所で①②③を実施 ①1489冊②62名③273名(3月末現在) ●4月7日3日実施。参加者49組(子ども51名大人50名) ●5月10月26日実施。参加者年長児268名	●公立保育所で5月より地域の子育て家庭に向けて行った①②③の事業は反響があり、毎月かさず数名の参加があった。地域の中の保育園で開催すること①②③の目的が全く違うことで、より多くの利用者とかかわりが持て、地域の子育て中の親同志の交流ができ、子育ての孤立化防止として成果があった。 ●未就学児親子を対象に実施した人形劇はとても盛況で、親子で触れ合いながら観劇する姿や参加者同士の会話もみられ、子育てに対する孤立化の予防に繋げることができた。 ●区内認可保育園の全年長児を対象に行った事業では他の保育園の園児との交流、各保育園間の情報共有が図れ、有意義な事業であった。	①～③は今年度と同様に、④⑤については対象者、内容、実施する時期等の検討をしたうえで、継続実施する方向である。
2	継続	こども関連大学連携事業	1,618,000	1,454,190	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
2-1	継続	麻生区マタニティコンサート事業			こども支援室	出産を控えた妊婦のリラクゼーションを図ることを目的として、昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家のコンサートや、保健師による妊娠中のワンポイントアドバイス、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行い、妊娠中からの子育て支援を図る。	7月12日(木)麻生市民館大会議室にて実施。参加者47名(大人39名、子ども8名)。 12月6日(木)麻生市民館大会議室にて実施。参加者46名(大人36名、子ども10名)。	7月12日(木)と12月6日(木)に、麻生市民館大会議室にて実施。①麻生図書館より絵本の紹介 ②ボランティアグループ「おはなしたまてばこ」によるおはなしひろば(読みみかせ、わらべうた等) ③保健福祉センター保健師によるマタニティワンポイントアドバイス ④昭和音楽大学卒業生で現在プロとして活動している方々によるオペラコンサートを実施。 実際の演奏が本格的だったため、「胎動が激しく、子どもがおなかの中で喜んでいた」や「穏やかな気持ちになれた」など妊婦さんの心のゆとりがもてるような支援が行えた。	今年度の実施結果を見直し、開催日時や事業の構成等を検討し来年度に実施する。
2-2	継続	麻生区子どもと一緒にのコンサート事業			こども支援室	未就学児がコンサートの対象から除かれることが多いため、保護者からのニーズが高い未就学児を対象としたコンサートを実施する。演奏は昭和音楽大学の卒業生に依頼し、昭和音楽大学ユリホールで行う。	2月2日(土)昭和音楽大学ユリホールにてサクセス五重奏コンサートを実施。参加者275名(子ども118名、大人157名)	昭和音楽大学内にある本格的なコンサートホールで、昭和音楽大学の卒業生によるサクセス五重奏の音色に触れることにより、音楽を身近に感じてもらうことができた。また、コンサート中のマナーなども体験学習することができ、音楽を通じた親子の交流の機会となり、子育て支援を図ることができた。	今年度の実施結果を見直し、開催日時や事業の構成等を検討し来年度に実施する。
2-3	継続	交流コンサート事業			こども支援室	昭和音楽大学の大学院生等が、コンサートや歌唱指導、器楽指導を行うことで、小・中学生に良質な音楽に触れる機会を提供する。さらに、大学生や大学院生と音楽を通じた交流を行うことで次世代育成を図る。	7月1日(日)昭和音楽大学内C103オーケストラスタジオにて実施。参加者94名(子ども50名、大人44名)。	今年度対象を区内の小・中学生とし往復はがきにて募集をした結果募集人数を上回る応募があった。 7月1日(日)に、昭和音楽大学内C103オーケストラスタジオにてオペラの鑑賞や歌唱指導等を実施。 ①「歌、オペラについて知ってみよう」昭和音楽大学教授や大学生によるオペラ鑑賞 ②「音を使って遊ぼう 音の神経衰弱」色々な楽器から奏でる音についての学習 ③「オペラを歌ってみよう」森のくまさんを題材に、実際に子どもたちが大学生と共にオペラ風に合唱 実際のオペラを体験することは少ないため、オペラについての学習は子ども達にとっても有意義な時間となり、音楽への学習効果が得られた。また、昭和音楽大学の学生が、子ども達に歌唱指導することで音楽を通して世代間交流を持つことができた。	今年度は事業実施の対象や形態を変えたが、取組の成果があったことを踏まえ、開催日時や事業の構成等を検討し来年度も継続実施する方向とする。
2-4	継続	地域にある鶴見川流域を活かした子育て支援事業			こども支援室	夏休みファミリー体験学習で、実際に川に入り魚や生き物に触れるなどの流域学習を体験することで、生物の生態学習や川の流れの学習、川の防災機能の学習などに繋げていく。また、休日に開催することにより親子の交流の機会を設け、子育て支援を行う。	7月21日(土)恩廻公園調節池及び鶴見川流域にて実施。参加者53名(子ども30名、大人23名)。	7月21日(土)に、恩廻公園調節池及び鶴見川流域にて実施。 ①A班とB班に分かれ、トンネル内見学と鶴見川流域についてのビデオ学習を実施 ②越流提前広場にて川に入るためのライフジャケットの装着と安全についての説明 ③生き物観察の実践・投網の実演 ④捕った生き物についての解説 実際にトンネル内を見学を行い、洪水等の危険から町を守っている治水センターの役割を学習することができた。また、親子で鶴見川に入りコミュニケーションをとりながら、生き物についての学習もでき親子の交流についても有意義であった。	事業の内容、開催日時などについて、今年度と同様とする。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
2-5	継続	あそぼう！けろけろ田園チャイルド事業			こども支援室	麻生区に在住する乳幼児の保護者を対象に公立保育園と田園調布学園大学と連携し、楽しい遊びの場を提供し、子育て支援を行う。公立保育園は学生との交流を通じた職員の人材育成を目的とし、大学は、親子と関わりの中で学生の子育て支援の実践力を養う場とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9月4日(火)実施 参加者39組 (子ども39名、大人37名)</li> <li>●2月26日(火) 参加者42組 (子ども42名、大人37名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●募集開始日に定員となる人気の事業。</li> <li>●公立保育所、田園調布学園大学との事前調整や準備のなかで内容の検討等を行うことで、参加者が楽しめる有意義な遊びの会を実施できた。</li> <li>●公立保育園保育士と一緒に実施することで、参加者の中で子育ての不安のある方への相談を継続して対応することができ、子育ての孤立化の防止に役立った。</li> </ul>	募集方法等見直し、継続実施する。
2-6	継続	日本映画大学を活用した子育て支援事業			こども支援室	日本映画大学白山キャンパスで親子を対象に、大学内での1日撮影体験などを通じて親子の交流の機会を設け子育て支援を行う。	8月18日(土)日本映画大学白山キャンパス今村昌平記念スタジオにて実施。参加者53名 (子ども27名、大人26名)	8月18日(土)に、日本映画大学白山キャンパス今村昌平記念スタジオにて実施。 ①映画作成についての授業 ②実際に、マイク・カメラを使用し、大学内にて撮影体験 ③スタジオ内のセットを使用し、シナリオをもとに短編映画を撮影④完成した短編映画を鑑賞 今年度は、半日から1日に事業を拡充し、10分程度ではあるが本格的な短編映画を日本映画大学の教授や大学生とともに撮影することで、大学生と小学生との間で世代間交流を持つことができた。また、親も子どもたちの体験学習を真近で見学でき、また子どもの真剣な表情や積極的な活動を見ることで子どもの違う一面を発見でき、親と子の距離を縮めることができた。	今年度の実施結果を見直し、開催日時や事業の構成等を検討し来年度に繋げる。
2-7	新規	おおきくなあれあさおっこ事業			こども支援室	父親の参加を呼びかけた遊びの会を、和光大学と連携し開催することで、麻生区に在住する乳幼児とその保護者の「子育て力」アップを目指す。	●11月17日(土)実施 参加者36組 (子ども36名、大人40名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●母親の参加だけでなく、父親も参加しやすい土曜日に実施し、父親11名の参加があった。また、アンケート結果でも父親参加型の遊びの会の必要性を感じている人が多く、好評だった。</li> <li>●参加者は1歳半から4歳児と年齢差があったが、和光大学と協力、調整することで各年齢に合わせた遊びを提供できた。</li> <li>●家庭での遊ばせ方のヒントになり、子育て支援に繋げることができた。</li> </ul>	募集方法等の見直しを図り、継続実施する。
3	新規	外国籍等こども学習支援事業	677,000	365,195	こども支援室	外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援するため、学校での個別指導や地域拠点(市民館・こども文化センターなど)での集団学習支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の授業中や放課後の個別指導</li> <li>●区内の公共施設における自由参加による集団支援</li> <li>●学校での支援における学校支援センターとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々のレベルや実情に配慮した個別の支援により、学習言語の理解を助け、学習力の向上を図っている。</li> <li>●集団支援には家族や友人も参加しており、地域の中での交流を深めることにつながっている。</li> <li>●学校支援センターと連携することで学校との調整等がより円滑になり、学習支援活動が効率的に行えた。</li> <li>●定例会における情報交換、ボランティア研修などにより、スタッフの対応力の向上が図られた。</li> </ul>	事業内容について、より一層の充実を図り、外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援する活動を継続していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>4 環境まちづくり事業</b>									
1	継続	あさお花いっぱい推進事業	900,000	524,301	地域振興課	区民との協働による地域の環境美化及び地域コミュニティの推進を目的に、川崎市美化運動実施麻生支部と協働し、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体を支援していく。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体へ花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に、寄与することができた。	今年度は16団体に花苗・プランターなどを提供し、団体の活動の活性化及び地域の環境美化活動の一端を担うことができた。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体の活動の助成、地域に根ざした活動の発展、地域の環境美化に対する意識向上を達成するため、当事業による支援は重要であり、地域の環境美化活動に対する更なる区民の意識の向上、自然の保護や育成に今後も継続的に取り組んでいく必要がある。
2	継続	麻生里地・里山保全推進事業	1,180,000	1,179,801	生涯学習支援課	麻生区は、多摩丘陵の豊かな自然を残しながら、「しんゆり・芸術のまちづくり」などを中心にまちづくりが進められている。しかし、その一方で、心を和ませてくれる里山やのどかな田園風景が、年々失われつつある。このまちの先人達が築いてくれた里山の自然や、その自然とともにある貴重な文化や歴史を継承し、様々な団体や個人との協働や連携を図り、まちづくりに根ざした新しい里地・里山の魅力を引き出し、次世代へつなぐための事業を展開する。	里地・里山ナチュラリスト講座を実施し、麻生区内の里地・里山保全活動をしている団体に参加する受講者もみられ、区民の関心を高められた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9月～3月 里地・里山ナチュラリスト入門講座を開催し、麻生の里山、川などの自然文化に区民が親しむ機会を提供し、自然保護に対する区民の関心を高めることができた。受講者の中には、麻生区内で活動する里地・里山保全活動をしている団体に入室しボランティアとして活動する人を養成することができた。</li> <li>●7月 からむし講座では、多くの親子の参加があり、次世代への伝統文化の伝承ができた。</li> <li>●8月 里地・里山通信を2,000部発行し、麻生区内に自然環境保護活動の周知をはかった。</li> <li>●3月 里山フォーラムを開催し、麻生区の自然環境保全に取り組む各団体が一堂に会し、子どもたちの発表や大人たちの発表、交流を通して各団体との連携をはかり、中間支援的団体としての役割を十分に果たすことができた。写真展も多くの応募があり、好評のうちに実施した。</li> </ul>	本年度実施の成果をさらに深めていく方向で、実施を予定。事業のさらなる効果的な実施のため、事業構成及び予算について見直しを行う予定です。
3	継続	ヤマユリ植栽普及促進事業	363,000	362,759	地域振興課	区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域の公園緑地管理運営協議会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動を促進、支援し、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤマユリ植栽地の観察・管理活動</li> <li>●ヤマユリ鉢植え講習会を2回開催（種編、球根編）</li> <li>●情報交換会1回開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域団体との連携を図りながら植栽地の管理活動を進めることができた。</li> <li>●講習会を通じて参加者のヤマユリへの関心を深めることができ、普及会の入会者を増やすことができた。</li> <li>●情報交換会では、今までの講習会参加者が集い、ヤマユリ植栽方法等について情報交換が行われ、今後の課題と解決策を検討することが出来た。</li> </ul>	貴重となったヤマユリの再生を通じて、地域のコミュニティづくりの支援を行うとともに、講習会や広報を通じて関心を喚起し参加者の拡大を図る。また、そのノウハウの蓄積、普及を推進することにより、地域の環境美化及び地域コミュニティの強化を促進していく。
4	継続	エコのまち麻生推進事業	1,702,000	1,104,513	企画課	区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発し、区民や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緑のカーテンを区内展開</li> <li>●環境フェア(イベント)開催</li> <li>●小学校への出前授業など自然エネルギーの啓発活動実施</li> <li>●区役所中庭の整備(環境啓発)</li> </ul>	緑のカーテンは、区内各施設(区役所、道路公園センター、保育園、岡上分館など)で昨年度より拡大実施し、区民に視覚的にエコ意識を啓発することができた。環境イベントについては、10～11月を環境フェアとして環境・エコ関連イベントの広報とオープニングイベント(上映会)を開催し、関連団体の連携と広報の充実を達成した。その他自然エネルギー学校、出前授業、お日さまコンサート、太陽光パネル設置相談窓口設置など、多種多様な視点で区民と協働による自然エネルギー活用啓発普及に寄与した。	第2期区民会議の提案から発した「エコのまち麻生」について、その豊かな緑・環境資源を活かし、また区民の意識の高さと相まって、より一層の普及啓発活動と継続的かつ多角的な仕掛け(イベント、講座、交流事業、その他)を区民との協働により検討していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>5 地域資源活用事業</b>									
1	継続	麻生音楽祭	4,000,000	3,929,089	地域振興課	「しんゆり・芸術のまち」の推進と連携し、麻生区を中心に音楽活動をしている音楽団体、小学校・中学校・高等学校などの音楽グループが、それぞれの自主性を尊重しつつ、日ごろの活動の成果を披露し、相互の交流を図りながら、互いに学び合うという精神を生かすとともに、広く区民のきずなを深め、区政の推進と芸術文化の向上を図る場として実施する。	●区民主体の音楽祭の開催 ●舞台運営の講習会の開催	音楽祭を開催し、新百合ヶ丘駅周辺にバナーフラッグを掲げることで、「音楽の街あさお」を多くの市民に感じてもらうことができた。また、バックステージ講習会により、舞台の裏方の人材育成を行うこともできた。	区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行できた。次年度以降は事業を実施しながら課題を検討し、改善につなげていく。
2	継続	あさお観光資源の魅力紹介事業	1,130,000	1,128,185	地域振興課	麻生区の魅力を区内外に向けて広く発信するための事業を実施する。 ・観光写真コンクール ・観光写真コンクール入賞作品を題材にした記念品の制作	・観光写真コンクールを企画し、実施した。 ・観光写真コンクール入賞作品を題材とした記念品を制作した。	●観光写真コンクールの開催については、11月から作品を募集、3月に表彰式を開催し、区役所等において展示会を開催した。また、観光写真コンクールの入賞作品を題材とした記念品を制作し、区民へ配布した。その結果、変化に富んだ麻生区の魅力を多くの方々に発見していただくとともに、区民への魅力をPRすることができた。	過去4回の実施内容を踏まえ、より効果的に事業目的を達成できるよう、実施方法等について改善していく。
3	継続	KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会	900,000	899,507	地域振興課	自然豊かで芸術文化の香り漂い、新たな故郷が感じられるまちづくりが望まれているなか、麻生区に定着している芸術文化資源「KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会」を有効に活用して、「ふるさとあさお」「芸術文化のまち麻生」を提供する。さらには、家族での夏休み最後の思い出作り場の場として提供する。	日時：平成24年8月25日(土) 会場：麻生小学校校庭 来場者数：1338人	●多くの区民が参加し、夏の終わりの思い出作り場の場を提供することができた。 ●上映映画「カンフーパンダ」に関連したステージイベントや、子どもが参加できるアトラクションを実施することで、親子や地域住民の交流の場を提供することができた。	地域の夏のイベントとして定着し、多くの区民が参加して親子のふれあいの場にもなっている。親子が楽しめる作品の上映と集客の向上を目指すとともに、区の魅力を内外に発信していく。
4	継続	ふるさとあさお再発見事業	1,310,000	1,209,648	地域振興課	【あさお古風七草粥の会】麻生区の豊かな自然の中で育まれた米・野菜・七草を用いて、「古風」の所以である焼いたお餅を加えたお粥を振る舞う。 【区内伝統伝承文化の紹介事業】区内に根付いた伝統伝承文化を広く区民に紹介し、伝統と文化に対する関心や理解を深めるとともに、「ふるさとあさお」の醸成及び継承を目指す。	【あさお古風七草粥の会】1月7日開催 【区内伝統伝承文化の紹介事業】伝統・伝承文化記録映像を制作し、関係機関へ配布した。	【あさお古風七草粥の会】七草粥を振舞うことで、多くの市民に伝統文化を再確認してもらうことができた。 【区内伝統伝承文化の紹介事業】伝統・伝承文化の記録映像を制作し、小中学校等へ配布したことにより、伝統・伝承文化に対する関心や理解を深めることができた。	地域に伝わる伝統伝承文化を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要であり、また広報等について効果的に行っていく必要がある。平成24年度のDVD作成・配布後も、区がどう携わり、関係団体とともにどのように展開していくか検討していく予定である。
5	継続	イメージアップ推進事業	1,330,000	1,248,150	企画課	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
5-1	継続	懸垂幕作成業務			地域振興課	麻生区のイメージアップを図るため、「アルテリッカ・しんゆり」の開催やスポーツ・文化活動などの全国大会出場等に応援する懸垂幕を区役所壁面に掲出し、広く地域住民にPRする。	●桐光学園サッカー部等の全国大会出場応援懸垂幕を掲出及び応援幕を贈呈 ●アルテリッカしんゆり開催PR懸垂幕の掲出	●桐光学園サッカー部・野球部・バス部・陸上部等の夏の全国大会出場懸垂幕を計3回掲出することで桐光学園の応援及びスポーツ活動の支援と区民へのPRができた。 ●桐光学園サッカー部・陸上部等の夏の全国大会出場応援幕を贈呈し、会場に掲示してもらうことで桐光学園の応援と麻生区のスポーツ活動への取組のPRができた。 ●「アルテリッカ・しんゆり」の開催を地域住民にPRできた。	桐光学園サッカー部全国大会出場応援と、「アルテリッカ・しんゆり」の開催をPRする懸垂幕を掲出し、区民へPRすることがた。今後も区のスポーツ・文化活動において、懸垂幕の掲出を行い、広く地域住民に広報していく。
5-2	継続	新百合ヶ丘駅周辺のイベント支援事業			企画課	公民協働による取り組みの内、「イルミネーションイベント」、「しんゆりオリーブまつり」を区の共催事業と位置づけ、イベント開催に係る経費の応分を負担する。	「イルミネーションイベント」並びに「しんゆりオリーブまつり」実行委員会に参加し、同事業の共催及び負担金の支出を行った。	「イルミネーションイベント」並びに「しんゆりオリーブまつり」実行委員会へ適時参加を実施した。また、同事業に共催し、当初予算額を負担金とし支出し「しんゆり芸術のまち」推進に向けて協働した取り組みを行った。	芸術・文化のまちづくりは、区計画の主要な取組としても位置づけられており、民間が主体となった活動と連携した取り組みを推進することが重要であることから、適正な負担額の範囲で継続していく。
6	継続	地域資源を活用したまちづくり推進事業	1,200,000	543,000	企画課	地域の特色ある資源の活用を図り、教育機関や企業等の団体と連携した魅力あるまちづくりを推進する。	麻生観光ガイドの会、禅寺丸柿サミット実行委員会と連携し委託事業を実施	区原産の最古の甘柿である禅寺丸柿をPRするサミットの開催や史跡・名所を巡るガイドツアーを各委託先と実施し、広報は市政だより区版等を活用することで、多くの区民の参加が得られ、区のもつ特色と魅力をアピールすることができた。	限られた地域資源の中で、新たな事業の企画、連携先を模索していく必要がある。また、区民ニーズや区役所の課題を反映させた事業を展開していく。
7	継続	あさお芸術のまちコンサート事業	2,470,000	1,880,959	地域振興課	平成12年度より始まった「あさおランチタイムコンサート」が会場を区役所ロビーから区内ホールへ移し名称を改め実施している。区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。	●コンサートの企画・運営 ●音楽家の発掘・人材育成 ●音楽家ネットワークの促進	●地域に根ざした活動として定着し、区民に大変親しまれている。 ●一回のコンサートにつき平均して200～300人の来場者(来庁者)があるとともに、毎回来場する根強いファンもおり、区民に期待されるコンサートとなっている。 ●他団体との連携を図りながら実施できた。(新春コンサートではあさお古風七草粥の会と協力、シネマサロンコンサートでは川崎市アートセンターとの協力により実施) ●開催回数を90回以上重ねてきたことにより、応募・出演したことのある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っている。ネットワークには約100組が登録(毎年更新)。	25年度は実行委員会から市民団体へ移行し、より市民主体の運営を目指していく。それに伴い、事業の内容の整理を行い、効果的な事業展開を行う。また、今後も他事業との協力・連携を一層図り、効率的で効果的な情報発信をしていく。地域の音楽家・音楽愛好家とともにより良いコンサートづくりに努める。
8	継続	しんゆり・芸術のまち推進事業	7,388,000	7,391,217	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術関係のさまざまな施設や人材などの地域資源を活かし、事業者、教育機関、市民、行政等の連携により、「しんゆり」を中心とした活力ある地域経済の創造、豊かな地域社会の実現と芸術を通じた幅広い効果を追求する「しんゆり・芸術のまちづくり」の確立を目指す。	●「芸術のまちづくり」民間推進組織及び芸術関連イベントの支援、民間推進組織による地域情報の収集・発信により、芸術のまちづくりの推進体制が確立できた。	「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働し、しんゆりオリーブまつり、Kirara@アートしんゆり等のイベントにインターシップによる学生を活用した企画を実施したことや、ケーブルテレビにおけるCM放映等の広報を行った結果、麻生区民、企業及び商業施設等に広く芸術のまちづくりを周知することが出来た。	●引き続き、「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働した取り組みを進め、芸術関連組織の行う活動を支援して芸術のまちづくりを推進するとともに、芸術・文化を中心とした地域情報の収集・発信を行う ●地域活性化ビジョンの結果を受け、民間とも連携した事業の展開 ●「しんゆり・芸術のまちづくりフォーラム」の運営補佐業務を、NPO法人に実施してもらうことで、円滑な事業運営を図る
9	継続	スポーツのまち麻生推進事業	3,603,000	3,009,307	地域振興課	「川崎フロンターレ麻生グラウンド」をはじめとした、区内のさまざまなスポーツ資源を活用した連携事業を実施するとともに、麻生スポーツセンターを核にして、地域のスポーツ関係団体の活動の支援や連携を通して、魅力あるスポーツのまちづくりを推進する。	●区内スポーツ資源(川崎フロンターレ)を活用した事業の実施 ●スポーツ推進組織の運営 ●各種スポーツ大会の支援 ●スポーツ関連情報の発信 ●区制30周年記念イベントの開催	取り組みにより、区内のスポーツ活動が活性化し区民の健康増進に寄与することができた。また地域住民が一体となって川崎フロンターレを応援することで地域コミュニティの活性化を図ることができた。	区制30周年記念スポーツイベントの実施により、ニュースポーツの普及啓発や総合型スポーツクラブの活動のPRができた。来年度も引き続き、スポーツのまち麻生の推進に向けて、より効果的・効率的な進め方を検証しながら取り組んでいく。
10	継続	区制30周年記念事業	2,500,000	2,500,000	企画課	区の花と木の制定、記念誌・記念DVDの作成などの記念事業の実施、7月1日の記念式典の開催を通して、麻生区の地域資源や魅力を再発見するとともに、区民どうしの交流を通じた地域の活性化と、区民の区に対する誇りや愛着を高める。	●実行委員会の開催(2回) ●記念誌、記念DVDの発行、冠事業の募集・広報 ●区の花と木の制定、ロゴマークの決定 ●記念式典の開催	前年度の区の花と木の公募による決定から引き続き、公募により区の花と「木」のロゴマークを決定した。7月1日の区の花と木の制定後、積極的にアピールし、区民の区への愛着増進に寄与した。また、記念式典は、区の特徴・主要施策でもある「芸術・文化のまち」と相まって、麻生音楽祭コンサートと共に実施し、多くの来場者と区の特性を改めて身近に感じることもできた。	本事業は、区制の周年行事であるため、次年度以降は改めて節目の際に執行方法、体制、予算等を検討するものとする。
11	継続	スポーツ・健康ロード整備事業	3,000,000	2,924,250	地域振興課	スポーツゾーンの玄関口である柿生駅から川崎フロンターレ麻生グラウンドを経由して栗平駅までの行程を「スポーツ・健康ロード」として整備する。	地域の関係者、道路公園センター、河川課等と調整し、整備内容を決定し、工事を実施した。11月11日の「あさお青まつり」で完成記念スタンプラリーを実施した。	スポーツ・健康ロードの設置により、ウォーキング等の日常的な運動の機会の提供が可能となり、区民の健康増進に寄与することができた。地域や町会の連携が強まったほか、住民の地域への愛着を深めることができた。	地元町会と連携して、健康ロード沿いに花壇を整備したり、フロンターレのマスコットキャラクターを活用した交通安全啓発表示を設置するほか、スタンプラリー等を行い、健康ロードの活用促進を図る。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>6 地域コミュニティ活性化推進事業</b>									
1	継続	麻生区市民活動支援施設利用促進事業	1,448,000	1,125,655	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」を麻生区における多目的な市民活動支援拠点として位置づけ、同施設の市民活動支援の推進を図ることを目的として業務を委託する。	●交流イベント、人材育成講座等の実施 ●地域ネットワークサイトの運営及び区民記者の養成 ●市民活動相談窓口の運営	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動相談窓口の運営や情報提供、市民活動団体のネットワークづくりなど市民活動支援全般に関わる業務を行うことで、市民の活動の場や機会を広げ、市民活動の更なる活性化につなげた。また、施設に印刷機やパソコン等の機器を配置し、市民がより活動しやすい環境を形成した。	引き続き、地域活動への参加促進のための情報収集・提供を積極的に行うとともに、市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関わる業務を行う。
2	継続	麻生区地域コミュニティ活動支援事業	897,000	744,419	地域振興課	「麻生市民交流館やまゆり」を通じ、麻生区における市民活動団体等の地域の新たなコミュニティづくりにつながる活動を支援することを目的に、資金助成事業を行う。	●提案型事業の募集・選定・実施 ●選定された事業の支援 ●事業実施報告会の開催	事業に対して支援やアドバイスを行うことで、市民団体の活動の幅を広げるとともに、新たな事業を開始する機会を提供した。	来年度についても、市民の主体的な参画によって運営されている「麻生市民交流館やまゆり」に本事業の事務機能を置き、市民活動を推進していく。
3	継続	麻生まちづくり学校事業	300,000	245,781	地域振興課	麻生区のまちづくりを進めるために必要な知識の取得、情報の提供、調査、研究、まちづくりを担う人材の育成及び地域主体のまちづくりの推進を行う。	●年間4回の連続講座を実施	ワークショップにより、まちづくりの具体的な問題についての現状把握だけでなく、解決に向けての考え方を学ぶことができた。	参加者の運営参加など学習だけで終わることのないような体制づくりを目指す
4	継続	町内会事業提案制度事業	1,000,000	686,498	地域振興課	地域住民相互のつながり、地域の課題解決力の強化を目指し、区内の町内会・自治会が行う地域課題解決等につながる事業を支援する。事業企画を町内会・自治会から募集し、審査により事業の有効性を判断し、提案元の町内会・自治会に実施を委託する形をとる。	4件の事業提案があり、すべての事業について委託契約を締結し、実施した。	今年度、4件の事業提案があり、すべての事業について委託契約を締結し、実施した。各町会・自治会からの提案事業を認定し、事業を実施することにより提案元の町会・自治会の地域課題解決力の強化を果たすことができた。	現状どおり事業を継続。留意点として提案件数が増加傾向にあることが挙げられる。
5	継続	麻生区地域功労賞制度事業	96,000	64,542	地域振興課	区内で活動している個人又は団体を対象とし、地域の活性化に貢献している個人または団体を麻生区長名で表彰し、地域活動への関心を高めることを目的とする。	●候補者の募集・選定・表彰という一連の事業を8月～10月にかけて実施	年間スケジュールに従い、候補者の募集、候補者の選考、表彰、受賞者の広報を実施した。制度が浸透してきたため、推薦数は増加傾向にある（平成23年度5件、平成24年度7件）。	これまでどおり事業を継続。今後応募数が増えた場合、選考の比重が重くなることが予想される。
6	継続	麻生区市民活動支援施設活用事業	8,279,000	8,240,149	地域振興課	当該施設は、新百合ヶ丘南口・旧あさひ銀行グランド跡地の土地利用転換に伴い、応分の負担として開発業者が「市民活動の拠点施設」を整備することが決まり、平成19年4月に市に寄贈され、供用開始した。当該施設を多目的な市民活動の拠点施設として整備するとともに、市民の主体的な運営参画を実現することにより、市民活動の一層の推進を図る。	●市民活動支援施設として、場の提供、情報の提供、人材育成に寄与	運営するNPO法人あさお市民活動サポートセンターへの委託事業及び自主事業の展開により、市民活動の支援を行い、市民が更に活動しやすい環境を形成した。	館の存在はある程度認知されたので、今後はそこで行われる事業内容なども精査しつつ事業展開を行う。
7	継続	麻生区多文化共生推進事業	573,000	571,600	地域振興課	市民との協働により事業を実施する。多文化共生を題材とした講演会や講座、麻生区在住の外国人市民との交流会等を通じて、これまで、特に多文化共生社会に関心が高くなかった層に対してもアプローチをし、多文化共生社会を麻生区全体に根付かせる。	国際理解参加体験型事業、講演会、講座、外国人市民との交流会を実施し、多くの区民の参加を得て、多文化共生の理解を広めた。新しいボランティアが増え、主体的に活動する麻生区民が増えた。	国際理解参加体験型事業（あさお区民まつり）、多文化共生を趣旨とした講演会、国際理解基礎講座、外国人市民との交流会を実施し、子どもから大人まで幅広い市民の参加を得て、多文化共生への関心と理解を広めた。毎回の参加希望者が増加しており、多文化共生の輪が広がっていることが分かった。また、ボランティア参加者が増え、事業の担い手として主体的に事業に参加し、自分の町をより良くしたいという意欲を行動につなげられる市民が増加した。	来年度においては、外国人市民と地域住民との交流を重視し、企画委員の自由な発想を尊重しながら事業内容を検討する。
8	新規	いきいきまちづくり推進事業	1,000,000	999,997	地域振興課	高齢者、障がい者、介護する方などが、より便利で快適な生活をおくるために、「かわさき基準（K I S）」認証福祉製品等の紹介・展示をはじめ、イベント（エコやユニバーサルデザインファッションショーなど）の開催などで、様々な出会いと交流の機会を通じて、みんながいきいきと質の高い生活をめざす。更に、福祉製品のPRなどを通じ、製品の普及促進と市内福祉産業の振興をめざす。	麻生区在住のシニアの人たちがモデルとなったファッションショーを2月20日に開催した	ファッションショーに参加してスポットライトを浴びることで、心と体の健康につながることも、仲間を作って生きがいや楽しみを見つけ、地域社会への参加につなげることができた。	今年度の検証結果を踏まえ、内容の充実を図る。

## 7 区役所サービス向上事業

1	継続	区役所窓口等サービス充実改善事業	1,259,000	1,280,827	保健福祉サービス課	区役所サービス向上指針に基づき、市民に便利で快適なサービスの効率的、効果的かつ総合的な提供を図り、市民の視点に立った区役所サービスの充実を推進する。	●混雑期に臨時職員の配置等受付体制の強化を行った。●支払窓口カウンターに手荷物台を設置した。●接遇研修を開催した。●記載台、相談窓口に杖ホルダー、デスクマットの設置や高齢者向けに背もたれ付椅子を設置した。●来庁者配布用案内リーフレット等を作成した。	●混雑期に臨時職員の配置等受付体制の強化を行った結果、混乱なくスムーズに誘導ができた。●支払窓口カウンターの手荷物台は、市民の方の会計時によく利用されている。●ボイスコールにより、わかりやすい窓口案内を行った。●接遇研修は、48名が受講した。●業務内容別早見表や来庁者配布用案内リーフレット等の作成により、各窓口での案内時や、市民の方が目的課を探す際に役立った。	市民の皆様が快適に区役所を利用できるよう、引き続きソフト・ハード両面から窓口サービスの充実・改善に取り組んでいく。区役所備品類の老朽化やバリアフリーへの配慮の必要性等により、待合環境や相談窓口等の整備の必要性が増大しており、経費の支出を要するものは区役所全体で総合的に優先順位を決め、計画的に整備を進める必要がある。また、ボイスコールの導入等により安定した窓口案内ができ、窓口サービスが拡充している。
2	継続	区政・地域情報提供事業	4,508,000	3,387,504	企画課	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
2-1	継続	麻生区統計白書作成			総務課	平成16年度からの継続事業として、各種統計データの収集・分析から明らかになった麻生区特性を冊子にまとめ、転入者や区内の学校へ幅広く配布している。平成19年度に作成した「あさお区ってどんな街？」は2年間の配布用として15,000部作成した。平成21年度事業としては全面改訂し「知れば知るほど あさお元気」を9,000部作成し配布した。また、平成22年度、平成23年度にはそれぞれ、内容を一部改訂し10,000部を追加作成した。24年度は3年ぶりの全面改訂を行う。	3年ぶりの全面改訂を行い統計白書の刷新を行った。平成25年度配布用7000部作成。	3年ぶりの全面改訂を行うため、公募型企画提案方式を採用し、民間のアイデアや区統計調査員の意見を取り入れながら、区民が麻生区への理解、愛着をより一層もてる内容に刷新した。主な刷新内容としては、誰もが気軽に手に取れるデザインとし、大きく7つの分野を設け分野別にコラムや各種統計データの特徴などを記載し麻生区への理解をスムーズに誘導できる内容とした。また、併せて中学生が統計白書に記載された各種統計データに興味を持ち、自己学習を促す内容を新たに盛り込み次年度の学校等への配布に備えた。	麻生区への理解、愛着をもってもらうことを目的として発行し、転入者をはじめとした区民に配布を行っていることから、将来的にも事業を継続していくことが望ましい。今年度は、全面改訂を行ったので次年度は増刷を行うことと併せて、引続き配布先及び活用方法について検討していく。
2-2	継続	麻生区広報関係事業			企画課	区役所職員の広報・広聴業務に関するスキルアップとともに、区民にとってわかりやすく親しみやすいホームページ及び広報紙等の作成をめざす。	●ホームページ更新（リニューアル含む）、操作研修の実施 ●広報紙作成研修の実施 ●市政だより麻生区版特別号の発行	区役所内職員のスキル向上とともに、区の情報発信と着信（区民の声）能力も底上げすることができた。また、ホームページリニューアルに当たっては、局内各課と密に連携して移行作業を円滑に進めるとともに、区独自の研修などで知識の共有を図り、新システム稼働後も大きな問題なく、維持管理できている。市政だより特別号については、区民からの声をもとに、区民目線（区民が知りたい）情報を凝縮した形で作成され、行政からの発行物に新たな一面を付与する意義があった。	区の広報広聴推進プロジェクトのあり方や実施内容を再検討するとともに、本年度リニューアルされた市（区）ホームページについて職員の操作スキル向上、市民に利用しやすい環境提供などを、研修や実務を通じて検証していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>8 地域課題対応事業その他経費</b>									
1	継続	緊急対応事業	4,194,000	0	企画課	区内の緊急課題、区民要望等に対応した事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て支援ガイドブックの在庫切れに伴い、改訂増刷の委託料に流用</li> <li>●保険年金課ボイスコール機の修繕に流用</li> </ul>	子育て支援相談窓口の状況を鑑み、こども支援室とともにガイドブックの作成・配布に関する検討調整を図り、より具体的かつ合理的な経年計画を新たに立てるとともに、今年度の在庫切れに対処することができた。区役所窓口サービスの視点から、機器の不備に伴う来庁者への不便を解消するため、迅速な修繕対応を行うとともに、今後数年先も見通した機器の管理・維持方法を模索・調整（リース・購入なども検討）することができた。	今後も区内の緊急課題、区民要望等に対応するために事業を継続する。
2	継続	事務費等共通経費	1,254,000	1,005,771	企画課	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品費等	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を、各課の実情を考慮・精査して無駄・余剰のないよう購入した。また、郵便料、複写品費等を適正に執行した。	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を購入し、郵便料・複写品費等を適正に執行することで、各事業の円滑な運営に寄与した。また、消耗品費等については、各課の実情も考慮しつつ、区民サービスの視点から必要なものを精査して購入を図り、各課担当者に、予算を有効に活用してもらう意識づけともなった。	地域課題対応事業を円滑に実施するために、今後も事務費の適切な執行に努め、更なる区民サービスの向上を図っていく。
3	継続	麻生区地域課題解決型提案事業	3,081,000	2,237,109	企画課	地域課題の発見と解決を図る新たな提案型事業を公募し、事業選定審査委員会の意見をもとに事業決定する。決定した事業は、市民活動団体等の提案団体と協働の理念にのっとり、事業を委託して実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の進め方（中間報告や次年度募集方法、審査基準など）を検討し、要綱を改訂した。</li> <li>●事業の公募及び説明会を実施し、審査委員会を経て区で次年度の事業を選定した。</li> </ul>	前年（初年）度の反省を踏まえ、次年度事業の募集方法と局内関係課（所管課）の関わり方、審査方法とその基準の見直しを図り、局内及び応募団体（区民）への円滑な説明と適切な事業選定を進めることができた。また、中間報告を取り入れることで、提案団体・所管課ともに進捗状況をより鮮明に意識することができた。	「事業提案」という性格上、どうしてもフレーム予算となってしまうが、今後の事業費及び事業数の拡大・維持・縮小については、経年の応募状況・実績も踏まえ、流動的に検討していく必要がある。
合 計			74,606,000	64,775,027					